❀よつばタイムズ67❀ R.5 1.20

講話朝会『サッカーワールドカップの日本人の姿から』

【話の概要】
サッカーワールドカップの日本代表チームの熱い戦い、日本人の姿から、私が感じたことや学んだこと
★ 相手に、そして、何より自分に負けない強い気持ちで臨むことの大切さ
★ 最後まであきらめず、粘り強く取り組むことの大切さ
★ 自分がお世話になった場所などに対して感謝の気持ちを持ち行動に表すことの尊さ
みなさんも、同じ日本人として、このような気持ち・行動を大事にして生活してみてはどうでしょうか。

始業式で、昨年を表す漢字「戦」に関わって、漫画のドラえもんの言葉から、私が考えたこと、特に「折り合いをつけることの大切さ」について話をしました。今日の講話朝会では、その第２弾として、昨年の１１月・１２月に行われた**サッカーワールドカップの日本代表チームの熱い戦い、日本人の姿から、私が感じたことや学んだこと**について、話をしたいと思います。

長岡小のみなさんにも知っている人が多いと思いますが、日本代表チームは、この大会で、優勝候補にも挙げられていた、ドイツ、そして、スペイン、両方の国から、見事勝利を収めました。どちらの試合も、前半は０対１で負けていましたが、後半の反撃で２点を奪い、見事逆転勝ちしたのです。私も、感激のあまり、立ち上がり、テレビの前で叫んでいました。

どちらの試合も、堂安律選手が、後半から出場し、反撃のきっかけの同点シュートを決めました。彼は、ドイツ戦の劇的勝利の後、インタビューでこう言っていました。「俺が決めるっていう強い気持ちで入りました。俺しかいないと思っていたので、そういう強い気持ちで入りました。」と。たいへんプレッシャーのかかる緊張する場面だったと思いますが、その後のスペイン戦でも、彼は同じように、気持ちのこもった同点シュートを決めたのです。**相手に、そして、何より自分に負けない「強い気持ち」で臨むことの大切さ**というものを、堂安選手からは教えてもらいました。

そして、左ミッドフィルダーの三苫薫選手がスペイン戦で逆転ゴールを演出した場面は、「奇跡の１ミリ」と呼ばれ、世界中から注目されました。ゴールラインを割っていたのではないかと抗議を受けましたが、ＶＡＲ（ビデオアシスタントレフリー）で判定した結果、肉眼ではわかりませんでしたが、わずか１ミリでしたがラインに残っていたということで、田中碧選手の逆転ゴールが認められました。**最後まであきらめなければ、何かが起きる、奇跡も起きる、粘り強く取り組むことが大事**だということを、三苫選手たちからは学びました。

日本代表チームは、その後の決勝トーナメント１回戦でクロアチアにＰＫ戦で敗れ、目標であったベスト８進出を果たすことはできませんでした。しかし、私は、日本代表チームの熱い戦い、選手たちの頑張りから、感動とともに、このような、また、これ以外にも、たくさんの学びを得ることができたのです。

さて、このサッカーワールドカップでは、選手以外でも、世界中から注目され、称賛（非常に素晴らしいとほめられた）日本人の姿がありました。日本人サポーターの姿です。多くの日本人サポーターが、日本チームが勝っても負けても、試合会場を去る前に、スタジアム内の清掃、ゴミ拾いを行っていました。大きなゴミ袋を手に、自分のゴミだけでなく、他の国の人が残していったゴミまできれいに拾っていたのです。その姿を目にした、たくさんの国のテレビ局や新聞社などのメディア、そして、そのことを知ったたくさんの国の人たちから、「ありがとう」という感謝の気持ちや「素晴らしい」という称賛の気持ち・声が寄せられました。様々な考えの人がいて当たり前なので、そのことを批判する声もありましたが、私は、日本人として、とてもうれしく誇りに思いました。

スペインのある新聞の記事には、「スタンドで応援していた日本人サポーターは、ただ応援に行くだけでなく、対戦相手やピッチ上の選手、環境、後片付けする人たちに敬意を払い、２１世紀のサッカーファンとしてのあるべき姿を全世界に示したのだ」と書かれていました。イギリスのある新聞では、このことを「最高の文化」だとほめたたえていました。また、ある大学教授は、このような行動を、みなさんが日頃やっている、学校での清掃活動の成果の表れだという人もいました。日本人には、**自分がお世話になった場所や環境などに対する感謝の気持ちと行動**というものが、小さいうちから知らず知らずのうちに少しずつ身についているのかもしれません。国際化が進んでも、日本人にとって、これからも大事にしていきたいことの一つではないか、と私は思います。

今日は、「戦」という漢字に関わる第２弾として、私の大好きなサッカー、その中でも、サッカーワールドカップにおける日本人の姿から、私が学んだこと、感じたことをお話ししました。**みなさんも、同じ日本人として、このような気持ち・行動を大事にして生活してみてはどうでしょうか**。最後に、今年は、漢字で表すと、どんな年になるでしょうね。そして、みなさんは、どんな年にしたいですか。